

平成 28 年 10 月 1 日（日） 南横山校区 タウンミーティング 参加者 18 名

【地域の課題】

市民：テーマとして、一人暮らしになって過疎での生活は、ということで、高齢になっても 2 人でいるときはまだそれほど田舎暮らしは苦にはならないと思う。それまで車であちこち行ってたのが、こどもたちから「車の運転は危ないから乗ったらだめ、必要な時は送り迎えしてあげるから」と言われ、運転をやめていっぺんに老けたと言われた。そういうことで友達も同じように高齢化してきて、そういう時に、私が提案させて頂いた小型のワゴンタイプのバスで側川、大野を經由して頂いて、道の駅リージョンへ行っていただければ、少々の買い物はリージョンにもあるし、少しの用事は済ませられる。書洩らしたが、我々南横山は日常、用事がないようで実はある。それで道の駅から北田中の農協前を回って頂いて、横山高校を經由して頂いて、国分の南海バスのバス停には橋本医院、そしてそこから乾医院。南池田農協前というバス停名が今は納花に変わったが、納花では農協はもちろんオークワへ行ける。そこから我々の提案は、直行して和泉中央の方へ行って頂きたい。なぜかという、ポイントとしては、高齢者は 30 分位バスに乗っているのが一番かなと。トイレを考えると、余り長いともうやめておこうと外出する回数が少なくなる。そこから直行して頂いて、メインの用事、シティプラザ出張所で少々の書類をあげられる、時間が許せばイズミヤやダイキで買い物もできる、郵便局もある。時間について、ここにも書いているが、せっかく行くのに何で 2 時間位やと。これが 3 時間になれば時間持て余して、待つ時間が大変、それでまた外出が少なくなる。これで 2 時間。また用事をし忘れた、来週また行こうか、という形で、できるだけ出向くように私たちは啓発して頂きたい。そして毎日のように運行して頂いたらありがたいが、最低週 2 回。これも土日はこどもたちが来て買い物に連れて行ってもらえる。火曜日にバスに乗って行ったら、次は木曜日。大体時間は 10 時位に出発し、11 時ごろに到着。買い物をして帰ってくると 2 時半頃帰宅、家の事も出来る。1 日をつぶすのではないので又出て行こうかとなる。もし帰りにバスに乗り遅れたら通常路線バスに乗ればいい。これは片道を利用する人が多いと思う。行きは若い人に乗せてもらう。時間を計算して頂いたら、利用する人が多いと思う。そこで今、南海バスの通常路線バスの料金は父鬼から和泉中央まで片道 500 円ということなので、片道利用者が多いのでちょっとおかしいと思われるかと思うが、片道は 350 円、当日往復利用する場合は往復 500 円にすれば、往復利用される方もおられるのではないかと思う。停留所は 4 か所位。あまり作ったら誰でも乗ってくる。私共のざっくりした説明になるが、わからない部分があれば質問して頂けたらと思う。もう一つ、私の質問で、以前 7 月 6 日にコミュニティセンターで平成 28 年度和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会に、傍聴として出席させて頂いた。その中で来年度に 480 号が開通したら J R の笠田駅から和泉市へバス運行の案があると聞かせて頂いた。その時の

説明ではトンネルを出て道の駅までは直行と言っていたが、我々はそこを通過して頂くだけではメリットがない。もし運行するならば、父鬼、側川等、利用できる場所で2か所位停留所を作って頂ければ。この件について、もし話が進んでいるのなら、言える程度で結構なので教えていただけたらありがたい。

市長：おっしゃられる通り、高齢者の方だけの世帯が増えている全市的に13件に1件は65歳以上の方だけの世帯で、その中で17件に1件が65歳以上の独り暮らし。もちろん南横山も新しい町の鶴山台、光明台、青葉台とか、逆にそういう所の方が増えている。若い子どもが引っ越して行って、もう一緒に住めないのが老々世帯が増えていて、鶴山台などは高齢介護者が35%位で、買い物難民などもある。全市的な取り組みで進めねばならないが、特に南横山も離れているが、公共交通機関やスーパー、葉菜の森は近くにあるので、使って頂けたら便利と思うが、考えていく必要がある。路線バスは難しいし、タクシーは費用がかかるので、路線バスとタクシーの中間で、来たい時に来ていただいて事前に予約する、デマンド型交通を今検討している。今年度中にアンケート調査をしており、運航方式、運行ダイヤを決めて、来年度、実証実験をする、実際に走らせてみる、というところまでいっている。これを交通手段として使って頂ければと思う。毎年のように日本の平均寿命が延びて世界1位になっている。やはり一番大切なのは健康寿命を延ばしていかないと、長生きしても病気の期間が長いと何もならない。幸せな人生を送れているかという疑問。健康寿命には何が大切かと言うと、体を動かすこと、そして人と人との交流を持つこと、それがなにより健康の基本ということで、外出するときには交通機関が必要なので、これからかなり充実させていきたいと思っている。今は「めぐーる」だけだが、高齢者の方に出て行こうかなと思って頂けるような仕組みづくりをしていきたいと思う。また、和歌山との路線バスの話は具体的には決まっていない。

市：具体的には決まっていないが、今かつらぎ町と南海バスと和泉市で調整をしており、基本的には実証実験的に実施できないかなと考えている。この辺まで来るので通過ということでなく、一定調整していこうかなというところ。12月頃に公共交通活性化プロジェクト委員会があると思うので、この中でも方向付けできるかなと思う。

市長：乗ってくれる人があれば停まることはそれほど難しい事ではないと思うので、検討は十分できると思う。

市民：デマンド交通については、先日道路河川室からアンケート用紙をいただき、配布している状態だが、できれば2、3か月テストでやって頂き、来年度の予算で行くと道路河川室課の方にお聞きしている。南横山活性化協議会というのがあり、15年位やっていたが、同じような状態で、バスの便数も減ったり、来ても時間帯のずれがあったりで色々な問題があり、南横山診療所の問題、買い物難民等、そうした色々な問題を解決する方法としてデマンド交通はどうですかという道路河川室の方から提案があった。我々も一番頭を痛めている所であるので、町会としては全面的に協力し

てやっていきたい。それに対して市長、来年度の予算、その色々な流れが出てくると思うが、最大限のご協力をお願いしたいと思う。

【市長との意見交換】

市民：和泉市全体としては非常にいい方向に進んでいると思うが、やはり地域の課題は色々ある。まず最初の質問だが、マスタープランの南部地域の活性化の中で、国道 170 号線沿線の景観の問題。例えばそこに工場を建てるという可能性の問題、さらに市街化調整区域における住宅の建設を可能にする、特に南横山地域では住宅 50 戸以上隣接するところに家を建てるのが出来ると、この 4 月からなると聞いたが、その辺の状況を説明を頂きたい。それと空き地空き家の問題で、自然環境の中で住みたいという人もこれから出てくる。空き家もリフォームできる空き家であればいいが、やはり壊した方が早い空き家がある。確かに災害の部分からも危ないし、色々な面で壊したい。地権者との問題があるが、神戸市が防災区域という制度を作り、密集したところでできるだけ地権者の了解を貰って家を壊す。それに対して補助金を出す。ただし 2、3 年は中央消防団として借り入れる。父鬼、側川もだが、防災の分でも空地が必要。そこで空き家をどうするかと言う形のところで、行政としてもたとえば取り壊しに関する制度の問題。今は質問事項だが、先ほどのお話のように交通過疎地の中で行きたいところにどこでも行けるとい、交通システムが将来大事だが、そこで究極的にはドアツードアータクシーを走らせる。しかも地域の住民が運転する、国交省の自家用有償旅客という制度があるが、この地域に合ってるのではと思う。いろんなステップを踏みながら進めていくべきと思う。5 年先には運転できない高齢者がこの地域にも増えてくるし、この 10 年というのは交通過疎地の問題があると思う。もう一つの課題は防災の問題。会場後ろのマップの中に、土砂災害ハザードマップの中に土砂災害警戒区域がほとんど埋まっている。市街化調整区域の問題で、空地があつてそこへ建てるにしても警戒区域に建てられないという問題がある。それと避難の問題で今年のタウンミーティングでも質問されていたが、南部リージョンセンターが避難場所だと。一律に何でもそこと言うわけではなく、きめ細かい、地震とか暴風雨とか色々な災害に応じた、地域の最善の避難方法を地域で考えていきたいと思っている。その時に行政の方でアドバイザーとして窓口を担当して頂ける方が地域の特性を理解して長期的にアドバイザーになって頂く方が必要。市長の回答の中にも南横山小学校は、耐震性は問題ないが、土砂災害ハザードマップの中にひっかかって、それがために避難場所でなくなったということで、ここが一時避難場所としているわけだが、一時であつて、現実的に南部リージョンセンターに行くのは無理。地域にあつた、人にあつた避難方法をきめ細かく考えていかないといけないので、どうしても行政のアドバイザーとなる方、密着して相談に乗って頂ける方が必要。長期的にやっていかないといけない。町内会の役員は 2 年 3 年で終わる。そういう中で引き継ぎながらまちづくりを考えると、行政と

町内会と地域との関わりという、個々の課題ごとに終わってしまうということが仲介する役員としては大きな悩み。まちづくりは長い目で考えたとき、確か去年のタウンミーティングにもそういう意見が出たと思うが、長期的にまちづくりに対応頂ける行政のあり方を望んでいる。

市長：170号線の活用ということについては、今はあまり地域に歓迎されるような活用ではなく、これからのまちづくりを考えると地区計画や都市計画を変えて、色々なものを誘致できるようにする必要がある。1年半ぐらい大阪府とやりとりして、一部だが話をしている。その都市計画を変えたからといって、いろんな企画ができるかというそうではない。水道、下水道、インフラ整備をできるだけ早い時期にすすめる。この秋に仏並に貯排水場、水道のタンクが15億円位かけて建設中で近く完成する。今は170号線の整備、大阪府にいろんなものを進めてもらっている。下水はもう少し時間がかかるが、そういったインフラ整備を進めている。宅地については、この4月から50戸以上の家が並んでいるところは住宅建設ができるようになった。昔であれば農地の隠居ですというのはだめだったが、今は他所から引っ越してきて家が建っている。空き家についてはなかなか条例を作るとするのは難しい。

市：国の法律が新たにできたので、和泉市の空き家条例は今は廃止している。

市長：色々確実に手続きを踏んで進めていくのに、大阪府内の取り組みしているところは行政代執行ということで個人の持ち物はつぶすことはできない。空き家は誰かに貸したらどうかと言っても、なかなか貸してくれない。外から見ると空き家だから、貸したら良いんじゃないかと思うが、耕作地は実際に借りれない。耕作放棄地の隣も一緒に地主が貸さないと言う。貸したら返してもらえないというのがあるからかもしれないが、なかなか貸してくれない。家も同じで空き家があるけど持ち主が貸してくれないので、移り住みたい希望者があるが、逆に供給体制ができてないので空き家はあるけど貸したくない。一つの大きな課題。

福祉について色々相談して頂いて、今は出前型の交通機関を考えている。

防災の場合は、防災だけのアドバイザーというのは、防災危機管理の仕事のスキルアップに努めていきたいと思う。常に継続的に皆様の相談に乗っていくようにするし、危機管理だけでなく、環境保全の部署とも対策がとれるように、専門職、環境職、防災の災害対策は行政の大きなテーマになっているので、そういう専門職自体があまりないので、できるかどうかわからないが、スキルアップ、職員の能力アップに努めていきたい。

市民：市の迷惑条例の効力というところで、父鬼の河川は街から家族連れで来て頂いて、涼を取ったり楽しんでいただいたりしていいのだが、現実には浄水場の上の白川の所に来る方が沢山来られる。バーベキューで火を使ったり油を川に流したり、キャンプする人もいる。そういうモラルの問題もあるが、一方浄水場の下は川に柵をして入れないようにしている。10数年前に事件が起こって、若い人たちが夜を徹して

騒いだり花火をしたりで、苦情が出て、迷惑条例には確実にひっかかる。できれば柵をとって、モラルの向上を図るために、人が減っていく中で、人口の交流ではないですが、市内のいろんな人に来ていただきたい。しかし駐車場がないので、近隣の家が非常に迷惑を被り、苦情が出ている。取り締まる事ができない。一番怖いのは火を使われることと、騒音、喧しいということ。その辺に対する条例の効力はどうか。どういう運用ができるのか。例えば「夜何時以降は川に入ったらだめ」と看板を置いても、効力はどうか、我々町会役員の悩みの種。

市：大阪府にはあるが、和泉市に迷惑条例はない。ごみのポイ捨て等の条例は26年に制定した。

市民：調べたら、和泉市の迷惑防止条例があったので、もう一度見直すが、現実にはそれがある無いに関わらず、いずれは来られる方のモラルの向上を図りながらやっていきたいと思う。

市長：迷惑条例は罰金過料を設けていない。ゴミのポイ捨てや愛玩動物の糞の条例を作ったが、罰金過料は設けてない。徐々に啓発活動を浸透させていくしかないと思う。それでも、たとえば街頭犯罪、平成13年にものすごく多かったが、和泉市安心安全なまちづくり協議会を作って、色々な団体に入ってもらって、啓発活動を行ったおかげで当時の4分の1になった。交通事故についても協議会を作って頂いて、協力を頂き進めていったら、先月死亡事故があったので途絶えたが、3年11か月和泉市死亡事故ゼロが達成できた。これは日本記録。気長に啓発活動を続けていくしかない。モラルの向上を高めていくこと。罰金を取ったら高まるかというところではなく、取締りというか、他所の市でタバコのポイ捨てに警察OBを使って、駅前だけタバコを吸ったら取締りということで、トラブルの元になっていたりしている。山の中でそういうことをやったりするのを注意しに行つてうまくいくかということ、難しいかと思う。啓発活動を気長にやっていきたいと思う。

市民：今年の6月に市民会議で、28年度和泉市当初予算案の説明をお聞きした。その時に安全安心なまちづくりで、4番目に携帯電話基地の整備、南部地域に8,700万円の予算で2か所つけたいという話をお聞きした。その後、すぐに危機管理担当とか色々なところへどこに聞きに行つたらいいのと話をした。公民協働でもわかりませんと。最初どこへ行つてもわからなかった。都市政策課で、大野町、側川町に無線局基地局を作ってよと言う話をしたら、8月に政策企画室長が来られて、もう決まっていますと。南部地域と言っても横山に2か所つける、グリーンランドとここに付けますと。ところが南部と言うと横山だけではなく、南横山も南松尾も春木川、若樫も山間部が多い中、案の中で聞いてるのに、聞きに行つたときにはもう決まっているというのは、理屈に合わないと感じた。その後自治会は、こっちの奥の方に入つたら全部圏外。メーカーによっても若干差がある。ソフトバンクは若干入るがauとドコモはゼロに等しい。どうしても災害時遭難時等、側川林道から槇尾山に夏場に上が

る人多いし、何か起きたときに連絡つけようがない。南部というと横山が中心に動いているような気がしてしかたない。市会議員 2 人が横山だからか。今回 3 人なって、市会議員の演説会で僕が付けましたと。小川に農地提供してくれるところがありましたので。市会議員がいないとできないのか。後回しになるのかなど、疑問に感じてる次第。

市：今回槇尾山町のグリーンランドと仏並の小川地区に国と大阪府の補助金を使って携帯基地局を設置しようとしている。この補助金の条件が、大手 3 社のどこも電波が届かないという条件になっており、現状側川地区には一部入らないところもあるかもしれないがソフトバンクが入ると聞いており、国の補助金をもらって市が設置するが、その制度を使ってドコモや au のアンテナを建てるとするのは難しい。ただそうしたお話をお聞きして、ドコモや au といった民間事業者に自ら進んで設置してもらえないかとこちらから直接お願いしたところはある。それについては、民間は営利があるので今現在はなかなか難しいという回答を頂いている。今後とも我々も携帯電話会社にそういったお話は要望していきたい。ただ補助金を活用して設置するというのは現時点では難しいという所でご理解いただきたい。

市民：関連して、第 2 トンネルと鍋谷トンネルができる。その中は携帯が 3 社とも通じると鳳土木からちゃんと聞いた。トンネルとトンネルの間は電波はどうか疑問。山間で白川地域、父鬼もあるので、この辺りを調べて頂いて。どうしても山間部は携帯が入りにくい。好みがあるから押し付けもできないので、ソフトバンクが入るからソフトバンクに変えたらいいという訳にはいかない。

市長：調べることは調べるが、和泉市だけでなく全国的なこととして、設置には何千万もかかるので、すべての地域で電波を通すのは難しいと思う。

市民：去年のタウンミーティングの時に父鬼町会からの要望の中で、防災無線が聞こえない、何とかならないかという要望をされていた。返事を去年頂いてるが、この中で防災無線の追加整備については要望を踏まえ慎重に検討したいとなっている。どういことを検討されどういう答えが出たのか返事がない。台風が来たりして、父鬼や大野町の町会が、一時避難所で消防や役員をしているが、たまたま無線は電池が減るからと中古の予備を頂いたが、そういう流れの中で各町会に充電器を 1 台渡すと。父鬼では無線放送が聞こえないと。検討しますで終わっている。何の連絡もない。聞くだけで終わっている。

市長：返事がなかったということについては指導しておく。防災無線は市内で 70 か所位設置している。和泉市全域でどこへ行っても内容が聞こえるというのはできない。国の方で、防災の考え方で、それは一つのサインとして認識してもらって、そこで電話して頂くなりして、何を言っているかわからないが、災害か何かあったのかと聞いて頂くと。何かシグナルを送るということで、そういうふうに防災無線を活用して頂くというのが考え方で、何か言っているなという時は情報をリサーチして頂く

努力をして頂く。

市民：聞こえにくいではなく、聞こえない。何を言っているのかわからないのではなく、聞こえない。まして夜、雨風であれば。

市長：聞こえないというのは和泉市全体で半分以上ある。設置していくのは、そこまでいかない。

市民：南横山校区は一番危ない地域になっているので、住みたいまち住みやすいまちとおっしゃるので、安心して住めるというのが大事だと思う。

市長：地域特性があると思う。本来聞こえるべきものが聞こえないのか、あまりに距離が防災無線のここまで聞こえると決まっていて、聞こえないエリアになっているのか、山間の危険な場所ですから。それはまた。

市民：同じ調べて頂くなら、天気の良い日ではなく雨が降ってる最中に来てもらうのが一番いい。来週くらいには台風が来そうだから考慮してもらって。

市長：色々手当する。音がなっても、耳が遠い人もいるので。

市民：ちょっと思ったのだが、鍋谷峠トンネルできてからは、今の道は市の管轄に移ると聞いたが、一部は不法投棄できないようにフェンスが立っているが、たぶん全部は無理と思う。車を止めるようなものを作って、自転車歩行者用の道はできないか。

市長：車を通られないようにするという事か。

市民：車通れなければ不法投棄できないし、林業の方は通れるように、という感じだが。不法投棄対策で大量に税金投入するよりも車止めを作って、林業の人は通れるが、他の車は通れないようにして。

市長：鍵を閉めてしまうということか。

市民：鍵か何らかの手段で。

市長：我々もそれができるのかどうか調べる。

市：道路上の地権者や色々と構造物を管理されてる方も沢山いらっしゃると思うので、皆様のご要望によって通れないようにするというのは。

市民：「一般車両は」ということだが。

市：山を持っていらっしゃる地権者は沢山おられると思うので。

市長：道路だから公共施設なので、かなり幅もあって一般に通さないというのは、道徳的に、道義的にいけるのか、少しその辺は調べる。

市民：もう一つ、そこで自転車レースで人集めということで、賑わいづくりで、そういうのをかつらぎ町とイベントみたいなものしたらどうだろうか。

市長：そんな声もあがっている。

市民：市役所の福祉課に行ったとき、相談員の対応悪かった。どうしたらいいか。

市長：状況がわからないので。どういう対応が悪かったのか。

市民：主人が行った時に、対応がちょっと悪かったみたいで。相談したい時に相談員が一人いたのだが、時間がかかって難儀した。

市長：ケースバイケースなので、具体的にどういう内容が悪かったかがわかればきっちり対応させて頂く。その時の状況がわからなかったら、人数がたまたま少なかったのかもしれないし、どういう行き違いがあったかわからないので、きっちりと状況を把握した中でしか、お答えできない。担当した職員の名前はわかりますか。

市民：障がい福祉課に行ったが、障がい者の事をあまり考えていない。

市長：障がい者の事を考えてないということはない。かなり力を入れてやっている。

市民：それは知らないが対応が悪い。

市長：行き違いがあるのかわからないが、支援センターを設置したのは、障がい者団体の皆様方と話をして。

市民：それもいいが、支援計画してるところがあるが、そこに連絡し、相談しても。

市：支援計画してるところとは支援センターか。

市民：市役所も悪い。普通だったら福祉協議会でしていた。それが相談員一人。課ごとに言うと、いっぱいだめだと。どうしても必要な時に相談できないのはいかん。何を考えてるのかと。

市長：相談体制はまだ十分ではないと思う。充実させていこうと取り組んでいる。

市民：ちゃんと相談したい時に、携帯を持ってないので、ファックスでもちゃんと知らせてほしい。一人でやってるので、連絡がなかなか進まない。

市：相談支援センター。

市：どこの場所ですか。本庁ですか。

市民：支援計画を個々に作らないといけない。

市：それを支援センターに委託している。社協でやっている。北部総合福祉会館で、社協に職員を出向させてそこでやっている。

個々の支援計画を前年度中に100%やっている。まずはそれをやっていこうとしていた。

市長：社会福祉協議会が作っているが人員不足しているのは事実。

市民：相談員は1人ではなく、2人以上で交代で聞けるようにしてもらいたい。

市長：まずは計画をつくり、それから相談を充実させていこうとしている。体制は作ったが、相談員は計画の方に取られているので、マンパワーが不足している。